ひ、未だ去り不申候、尻の穴三つ有之候、總體骨なき樣に相見え申し候、屁の音はスッ〳〵と計り申し候、打ち候へば、首は胴の内へ八分程入り申し候、胸肩張出し、脊むしの如くに御座候、死候ては、首引き込み不申候、當地にて度々捕へ候へ共、此度上り候程大きなる重きは、只今迄見不申候、珍敷候間申進候、已上。

六月五日　東濱　權平治

浦山金平樣

これ享和元年辛酉歳のことなり

〔諸國里人談二妖異〕河童歌

肥前國諫早の邊に、河童おほくありて人をとる、

ひやうすへに川たちせしを忘れなよ川たち男我も菅原、此歌を書て海河に流せば、害をなさずとなり、ひやうすへは兵揃にて所の名なり、此村に天滿宮のやしろあり、よつてすがはらといふなるべし、又長崎の近きに澀江文大夫といふ者、河童を避る符を出す、此符を懷中すれば、あへて害をなさずと云、或時長崎の番士海上に石を投て、其遠近をあらそひ、賭して遊ぶ事はやる、一夜澀江が軒に來りて曰、此ほど我栖に日毎石を投ておどろかす、是事とゞまらずんば、災をなすべしとなり、澀江驚き、これを示す、人皆奇なりとす、

怪獸

〔書言字考節用集五氣形〕山猱（ヤマオトコ）神異經、深山有人長丈餘、曰山猱、山丈（同又云巨靈）

〔和漢三才圖會四十寓類惟類〕山猱　俗云、也末和呂、

神異經云、西方深山有人長丈餘、袒身捕蝦蟹、就人火炙食之、名曰山猱、其名自呼、人犯之則發寒熱、蓋鬼魅耳、惟畏爆竹焰煳聲、

按九州深山中有山童（ワロ）者、貌如十歳許童子、遍身細毛柿褐色、長髪蔽面、肚短脚長、立行爲人言、而詎